能登やさしいこめづくり情報

田　植　え　編

平成２９年５月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
ＪＡ　能登わかば

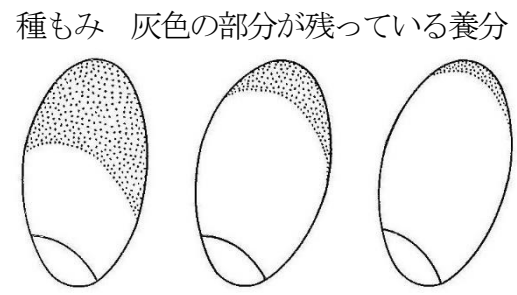
〔今回のポイント〕

育苗日数１か月以内の健苗の田植えで早期活着！

育苗日数が長く、葉令が進んだ老化苗を植えると、活着が遅れ、その後の株できも悪くなる傾向があります。その結果、出穂期や登熟期がバラつき、未熟粒による品質低下や、屑米が多くなり収量が減少します。

活着を良くするためには、種もみの中に養分が残っている苗の葉齢２．２葉期から２．５葉期に田植えすることが重要です。

葉齢２．２～２．５葉期は育苗日数１か月（２０～３０日）となります。



育苗日数
２０～３０日
（田植え適期）

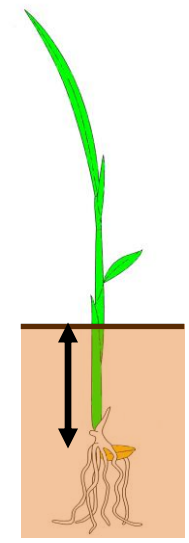
１　田植え前の準備について

（１）苗の準備

① 育苗日数１か月以内の健苗を用意しましょう。（上記参照）
② 日中はハウス内の換気に努め、15～20℃で管理しましょう。
③ 田植え４～５日前からは夜間もハウス側面を開放し、苗を外気に慣らしましょう（順化）。

（２）代かき

① 田植えの精度や苗の活着に影響するので均平を心がけましょう。ねりすぎにならないよう注意です。
② 水を少なめにすると、稲わらを土中に埋め込み易くなります。代かき濁水は排水しないこと。
③ 作業は田植え日や除草剤を考慮して計画的に実施しましょう。



２　田植え作業について

（１）時　　期：登熟期の高温を避けるため<u>５月に入ってから</u>行いましょう。

（２）植付本数・株数：１株当たり３～４本、株数は坪当たり６０株程度が適切です。
<u>特に山間地・低地力田・遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため疎植は避けること。</u>

（３）植 付 け 深 度：初期分げつ確保のため、<u>２～３ｃｍ（第１葉が見える程度）の浅植えとすること。</u>
田植え前に、田植機の植付け深度の設定確認を行うようにしましょう。

（４）田植え直後水管理：植え傷み防止のため、５日間は深水管理とし、その後は浅水管理に切り替えて下さい。

３　基肥施用について【能登米（コシヒカリ）は化学合成窒素成分量５.６kg/１０a 以下】

<u>基肥一発肥料は代かき直前（全層施肥）または田植同時（側条施肥）で施用</u>すること。基肥一発肥料を全層施肥する場合、田植えまでの日数が開くと、穂肥の溶け出る時期とイネの生育ステージにズレが生じ、倒伏の原因となるので、<u>代かきと田植え日を５日以上開けない</u>ようにしましょう。

施肥体系	肥　　料　　名	施　用　量（kg/10a）	
		能登米コシヒカリ	早生品種
基肥一発	ＢＢ有機入り能登コシ一発	20～上限 30	
	ＢＢけい酸パワー・コシ一発くん	40～上限 55	
	ＢＢ里山の香	45～上限 53	
	ＢＢ新早生一発くん		35～40
分施体系	ＢＢ高度０５６号	20～上限 28	30～40

※注意　１：施用量は目安です。地力に応じて加減して下さい。
　　２：コシヒカリは、化学窒素成分量を３割削減した能登米栽培のため、施用量の上限を厳守すること。

4　病害虫防除・除草剤の使用について

（1）　苗箱施薬剤の散布について

苗箱施薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr.オリゼフェルテラ粒剤 2成分	田植３日前 ～田植当日	50g／箱	いもち病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

※中島育苗センターから購入される苗は苗箱施薬剤が散布済みです。苗箱施薬剤を重複して散布しないようご注意ください。

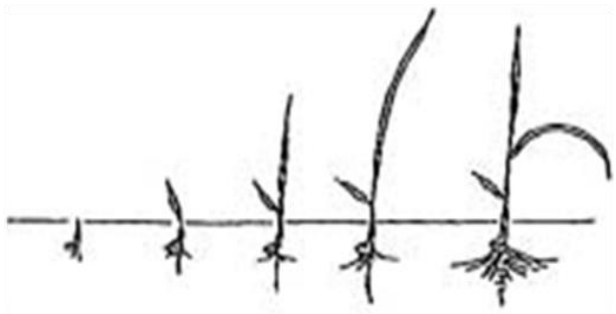
（2）除草剤の使用について

・雑草は代かき直後から発生します。除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。
代かき後日数とノビエの葉齢は下表を参考にして下さい。

（参考）代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0葉期	1.5葉期	2.0葉期	2.5葉期	3.0葉期
代かき後の日数（平年の場合）	輪島	８日	１３日	１８日	２３日	２７日
	珠洲	９日	１５日	２０日	２５日	２９日

※5月１日に代かきを行なった場合を平年の有効積算温度により試算



体系		除草剤名		10a使用量	使用時期
初中期一発剤	2成分	ガンガン１キロ粒剤		1 kg	田植同時～ノビエ３葉期
	3成分	カチボシ1キロ粒剤51		1 kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
		コメット	１キロ粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
			顆粒	80g	田植同時～ノビエ2.5葉期
		バッチリ	１キロ粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
			フロアブル	500mL	田植同時～ノビエ2.5葉期
			ジャンボ	400g	田植直後～ノビエ2.5葉期
		サラブレットKAI1キロ粒剤		1 kg	田植同時～ノビエ2.5葉期

※残草・後発生があった場合

体系		除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤	1成分	※多年生雑草が残った場合 アトトリ１キロ粒剤	1 kg	田植後20日 (稲５葉期以降)～ ノビエ４葉期
		※ノビエが残った場合 ヒエクリーン１キロ粒剤	1 kg	田植後15日～ ノビエ４葉期
		※広葉・多年生雑草が残った場合 バサグラン粒剤	3～4 kg	田植後15～50日 (落水散布)

※本年度から能登米コシヒカリの除草剤(初中期一発剤)が大きく変更になっています。昨年度までの除草剤は本年度に限り使用可能です。（コシヒカリ以外は除草剤の指定なし。）

初期剤	1成分	マーシェット1キロ粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ１葉期
		ベクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

＋

中期剤	3成分	マメットSM1キロ粒剤	1 kg	田植後20～30日 ノビエ3.5葉期

・除草剤を田植同時処理した場合、田植後、直ちにゆるやかに入水し、湛水（4～5cm）を保ちましょう。
・除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。
安定した効果を得るために、散布後５～７日間は止め水とし、落水やかけ流しはしないこと。

5　補植作業は基本的に行わない

・20株に１株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株の補償作用で減収にはつながりません。
・どうしても補植作業する場合は、除草剤の散布前に実施して下さい。除草剤散布後では、補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります。
・補植苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業終了後は速やかに圃場から遠くへ撤去して下さい。

安全・安心な環境にやさしい能登のこめづくりルール

□安全･安心な米を提供するため、農薬はラベルに記述してある使用方法を厳守して下さい。
□水稲育苗ハウスの後作に野菜を栽培する場合は、ハウス内で水稲用農薬を散布しないこと。（農薬が残留すると野菜の出荷･販売は出来ません）
□河川の生き物に対する配慮の観点から、代かき作業は浅水で行い、田植え前の強制落水は避けて下さい。特に、代かき時の濁水は排水しないこと。